

エゴマ通信で情報発信 ～えごまの力・色麻の力～

色麻町のえごまは、元々自家用として栽培・消費されていた。2000年減反政策が強化され、町でえごまを転作奨励作物としたことで作付面積は毎年少しずつ増えていった。

2001年8月、26戸の栽培農家により「色麻町えごま栽培推進協議会」が設立された。

協議会では栽培技術の習得、品質及び生産性の向上を目的に活動しており、2020年12月現在、会員数は65経営体となっている。

えごまは免疫力を高めることが出来る作物で、「えごま油」や「えごま焼酎」「えごまクッキー」等特産品も増え、ふるさと納税の返礼品にもなっている。




令和2年11月号
発行元 色麻町農業委員会
0222-02-2154(代表)

エゴマ通信 第19号

重要 11月中に出荷を

色麻町では、国の補助金（産地交付金）の交付金が12月10日（予定）で締め切っております。
新色麻町農業院発分社に出荷していただき、**送料300円/1.0tを削減できない場合は、補助金支拂いの遅延、または停止**となりますのでご注意ください。
※「基準収量を大きく下回ったことの理由書」の提出があり正当な理由と判断された場合はこの限りではない

色麻町地域協働活動推進事業の開催

10月28日に色麻学園において小学4年生を対象としてえごまに関する講座が開催されました。えごまの栽培・加工・販売についてなど生産者の質問にお答えをさせていただきました。11月上旬頃には体験作業を行う予定です。

色麻町・色麻町えごま栽培推進協議会

町と協議会合同で2016年6月「エゴマ通信」第1号を発行。現在も定期的に発行しており、2020年11月には第19号が発行された。

町担当者は、「エゴマ通信には栽培方法、出荷方法、補助金等の情報が満載で、町のホームページにも掲載されている。栽培農家の原動力となっていることを信じて今後も発行し続けていきたい」と意気込みを語ってくれた。

【記事提供：色麻町農業委員会】